

人口推計（大枠）から大河原町の現状と今後の課題を見る。

そして講ずべき対策を示す

このままだと 2060 年には

- ⇒現在と比較し人口が約 6,900 人減少（約 29%減）、年少人口が 1,800 人減少（約 54%減）、生産年齢人口が約 6,000 人減少（約 41%減）、高齢者人口が約 1,000 人増加（約 17%増）
- ⇒生産年齢者の 1.24 人で高齢者 1 人を支える社会になる。
- ⇒社会保障費・税の負担増、消費が増えない、経済の循環が悪くなる、町財政の硬直化を招く、公共施設・インフラの老朽化対策が進まない
- ⇒生活が苦しいと結婚に踏み切れない、生活が苦しいと子どもを産んで育てる余裕がない
- ⇒若者が給料の高い都会に移り住む
- ⇒一人暮らし高齢者・高齢者世帯・老々介護・認知症高齢者が増える
- ⇒農林水産業の担い手不足、中心市街地の空洞化が更に進む
- ⇒地域コミュニティの共助機能が低下する

結婚・出産・子育てがしやすい支援策が必要

- ・平成 25 年度の合計特殊出生率が 1.43 であり、この出生率の低下が続くと大河原町の年少人口は 2060 年には半分になる。出生率を上げることで、将来的に生産年齢人口も押し上げる形であるので、結婚、出産、子育てをしやすくする支援を講じる必要がある。
- ・10 代、20 代の女性が町内に転入してくる人数より、転出していく人数の方がかなり多い。結婚、出産、子育てがしやすい環境をつくることで、大河原町で結婚したい、大河原町で子育てしたい、大河原町に転入したいという状況をつくる。
- ・雇用・就労環境に対し、結婚、出産、子育てを重視する支援策が必要。

高齢者の健康寿命の延伸により人口減少を抑える。歩きたくなるまちの推奨

- ・年少人口や生産年齢人口が減少していくのに対し、高齢者人口は 2050 年まで増え続け見込みである。他市町村では高齢者人口のピークが 2030 年～2040 年に到達し、その後全体的な人口減少を迎えるのに対し、大河原町は高齢者人口のピークが遅れてくることから、その間の増え続ける高齢者にいかに健康でいていただけるかによって全体的な人口減少を遅らせることができると考える。
- ・中高年の身体が衰えをいかに防ぎ健康を維持していくか。お金がかからず、道具もあまりいらぬ、時間も本人の選定で決められることから「歩く」ことを推奨する。

元気高齢者が地域づくりの主役となり、地域の助け合いを継続していく

- ・経済が回復しないと、結婚、出産、子育てに対する希望が薄れる。子育てを行政が支援するにも限界があり、地域の助け合いが重要になる。高齢者が多くなることで、やがては要介護になる方も増える。サービス事業者がいるとしても家族がお年寄り（老々介護）だったり、働き手の家族が休めない場合にも地域の助け合いが重要になる。一時的な見守りや、家族がリフレッシュするための支援などに加え、地域の高齢者の健康を増進させる担い手、介護予防活動、コミュニティづくりなど、共助の精神で元気な高齢者が地域のお世話役になっていただければ地域の助け合いが継続されると考える。